

氏名(本籍)	か 恒 松 美香子 (東京都)		
学位の種類	博 士 (スポーツ医学)		
学位記番号	博 甲 第 5528 号		
学位授与年月日	平成 22 年 5 月 31 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	腰痛および膝関節痛を有する中高齢者に対する身体活動量増大を目的とした鍼施術および運動療法に関する研究		
主査	筑波大学教授	博士(医学)	宮川俊平
副査	筑波大学准教授	博士(医学)	久野譜也
副査	筑波大学准教授	博士(医学)	向井直樹
副査	筑波大学教授	博士(ヒューマン・ケア科学)	松田ひとみ

論文の内容の要旨

(目的)

運動器に疼痛症状を有する中高齢者において、疼痛症状レベルと身体活動量および身体機能レベルとの関連を検討したうえで、疼痛軽減や身体機能改善を目的とした鍼施術もしくは鍼施術と運動療法の併用が身体活動量の増大に与える影響を明らかにすること。

(対象と方法)

いずれの検討も 60 歳以上の腰痛もしくは膝関節痛を有する中高齢女性とした。まずは疼痛症状と身体活動量および身体機能の関連を横断的に検討し、次に、鍼施術単独の身体活動量増大効果を、最後に鍼施術と運動療法を併用した身体活動量増大効果を検討した。

(結果)

腰痛症状は日常の歩行による身体活動量と関連が認められた。一方、膝関節痛は身体活動量と関連は明確ではなかったが、膝伸展筋力および歩行能力との関連が認められた。疼痛症状および身体機能の改善と身体活動量増大の関連において、鍼施術単独よりも運動療法を組み合わせた介入において、高い身体活動量の増大効果が認められた。

(考察)

中高齢者において、一定の身体活動量あるいは身体機能を維持するために、腰痛や膝関節痛が重症化する前に早期に予防策を講じることが重要であり、その対策として、鍼施術に運動療法を加えることが有用である可能性が示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、運動器に疼痛症状を有する者が将来的に要介護状態に陥ることを早期から予防するうえでの有用なデータが示されており、社会的意義も高い。また、複数の研究課題についての検討がなされ、論文としての質も高い。今後のさらなる研究の発展を期待する。

よって、著者は博士（スポーツ医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。